

ごま葉枯病 対策情報

平成 19 年度、新潟県下越、佐渡及び中越の一部に「**ごま葉枯病**」が発生し、一部では収量品質に大きく影響する被害が出ました。平成 20 年度には更に面積が拡大しました。
同じ場所で毎年発生する傾向があるので、以下を参考に**ごま葉枯病対策**をしましょう。

ごま葉枯病の発生しやすい水田

ごま葉枯病は土壌条件や稲の栄養生理と関係深く、肥料の流亡しやすい砂質浅耕土、根腐れの多い老朽化水田、あるいは黒泥土田など、**同じ場所で毎年発生する傾向**があります。

ごま葉枯病の発生の原因と対策

○カリ、ケイ酸などの欠乏

カリ、ケイ酸、苦土、マンガン、鉄が欠乏すると多発します。
とくに**カリ欠乏状態では病斑が増加し、大型病斑**になります。
また、チッソの一時的な欠乏で発生を助長します。

対策

カリ、ケイ酸、苦土、マンガン、鉄の補給で発生が軽減されます。
また、緩効性肥料の施用などにより、チッソ切れを起こさないようにしましょう。

○根腐れの発生

水はけの悪い酸欠水田では硫化水素ガスが発生し、根の活力が低下（ひどければ根腐れ）するため、カリやケイ酸の吸収が阻害されます。

対策

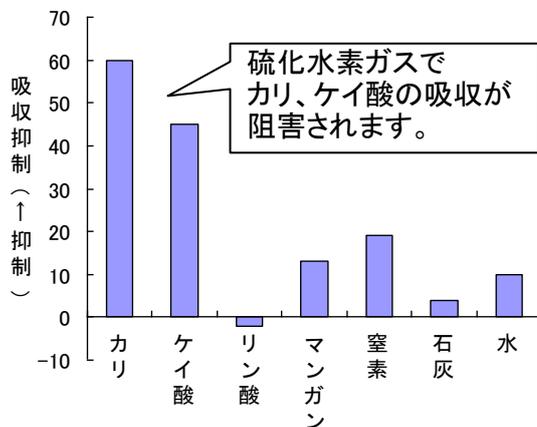
硫酸分を含む肥料（硫安等）の施肥はなるべく控えましょう。

ごま葉枯病とは

病徴 葉に濃褐色の楕円形を生ずる。
病菌 分生孢子および子嚢孢子を作る。



<平成 20 年新潟県五泉市での発生状況>



硫化水素による水及び無機成分の吸収阻害率

ごま葉枯病に効果的な「けい酸加里」の活用

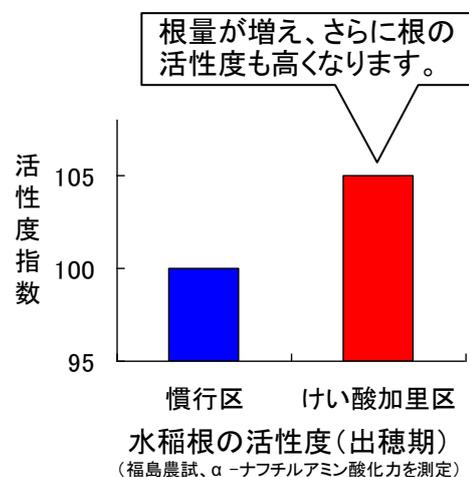
○けい酸加里の成分はごま葉枯病対策に最適です。

けい酸加里は、欠乏するとごま葉枯病が発生しやすくなる**カリ、ケイ酸、苦土、鉄（含有成分）を含んでいます**。けい酸加里施用により葉や茎などの表面にケイ化細胞が形成され、**ごま葉枯病にかかりにくくなります**。

保証成分(%)				含有成分(%)	
く溶性加里	可溶性けい酸	く溶性苦土	く溶性ほう素	石灰	鉄
20	34	4	0.1	7~12	2~5

※ごま葉枯病の防除は都道府県の防除指針に従って下さい。

○けい酸加里施用により根量が増え、根が健全になります。



○けい酸加里は硫酸分を含んでいません。

けい酸加里は**根腐れの原因になる硫酸分を含まず**、肥効も穏やかで根を痛めません。

○けい酸加里によるごま葉枯病に対する効果

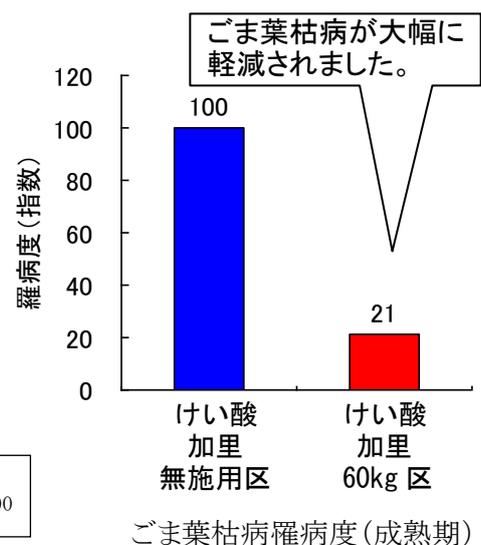
けい酸加里施用により**ごま葉枯病が軽減**されました。

区	出穂期		成熟期	
	罹病度	指数(%)	罹病度	指数(%)
けい酸加里無施用区	10.8	100	39.2	100
けい酸加里60kg区	0.8	7	8.3	21

けい酸加里基肥施用によるごま葉枯病罹病度への影響
(福島県農業試験場 冷害試験地 品種 奥羽 304号)

注) 罹病度(後藤氏の方法による)

$$= \frac{\text{II型病班数} \times 1 + \text{III型病班数} \times 2 + \text{IV型病班数} \times 3 + \text{V型病班数} \times 1}{\text{調査葉数}} \times 100$$



◎ごま葉枯病対策に「けい酸加里」をご活用下さい。

	使い方	施用量(10a当り)	施用時期
「けい酸加里」を	基肥の場合	40~60kg	耕起前
	中間追肥の場合	30~40kg	出穂前45~35日

開発肥料株式会社